

人類よ起ち上げれ!

ムーンマトリックス

[覚醒篇③] *Human Race Get Off Your Knees*
David Icke

地球支配の手口「プロブレム・リアクション・ソリューション」
これを知っておけばもう騙されない!



デーヴィッド・アイク
為 清勝彦 訳

月は超巨大な電波塔だ!
奴らは月から虚偽の現実を放送している!
それをわれわれは、ホログラムの物質世界として認識するよう
脳を操られているのだ!!
あなたを裏でしない現実認識における
新世界の荒野へと投げ出す快著!!



SAMPLE



009

ムーンマトリックス「覚醒篇」
③

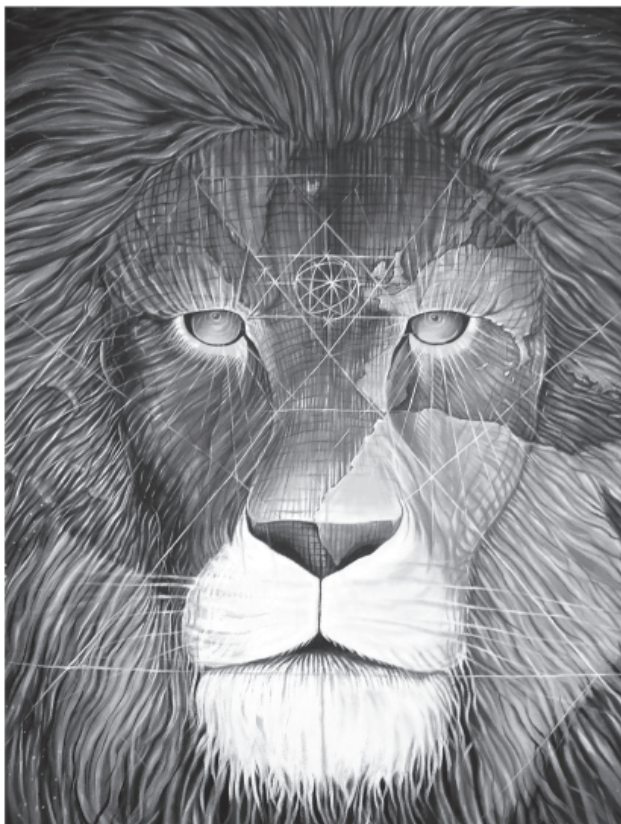
デーヴィッド・アイク

訳為 清勝彦

ヒカルランド

SAMPLE

そして、待望の覚醒第3弾!



The lion sleeps no more.

各巻の構成

【第1巻】我々は通常、自分の身体やものの考え方、自分の名前などをもって「自分」と思っているが、実はそれは錯覚であるということ（第1章）、そして、アイクが1990年に覚醒の旅を始めるまでに辿った人生経験の必然性（第2章）、覚醒の旅を始めて以降、世間から大々的に嘲笑ちやうしやうされることで真の自由を得たこと（第3章）が記述されている。

【第2巻】第4章より、アイクが過去に行ってきた真実の解明の内容が、解明を行った順に（解明に導かれた順に）紹介してある。太古の「黄金の時代」の終焉をもたらした地殻変動（大洪水）の後にメソポタミアの地に出現したシュメール文明。それが、バビロン、エジプト、ローマ、ロンドン（バビロンドン）と変遷し、今日の世界支配ネットワークになった（第4章）。イルミナティの地球規模の蜘蛛くもの巣（ウェブ）、ピラミッド支配構造（第5章）。イルミナティの血筋の中核をなすロスチャイルド家とその金融支配の窓口（第6章）。「ユダヤの陰謀」と言われるが、ユダヤ人はスケープゴートに過ぎない。陰謀を巡らしているのはロスチャイルド・シオニストである（第7章）。

【第3巻】人類支配の基本テクニクである①PRS（問題を作る↓人々に反応させる↓支

配に都合のよい解決策を実施)、②全体主義者の忍び足について、9・11事件、地球温暖化詐欺などをケーススタディにして解説(第8章、第9章)。

【第4巻】人間の基本的な行動や感情を支配する爬虫類脳。現在の人類は爬虫類人の遺伝子操作によって創造された(第10章)。世界各地の古代神話・伝説・信仰に共通する蛇崇拜は、現在の悪魔崇拜やさまざまなシンボルとなって受け継がれている(第11章)。

【第5巻】言語に暗号化されている蛇の人類支配を言語学の視点で分析(第12章)。爬虫類人はどこに居るのか?(地下世界、変身のことなど)(第13章)。月は、自然の天体ではなく、工作された宇宙船である可能性を検証(第14章)。

【第6巻】アマゾンの熱帯雨林で聞こえた「声」のメッセージ。愛だけが真実であり、他は何もかも錯覚だった(第15章)。人体をコンピュータにたとえ、宇宙をインターネットにたとえるアイクの宇宙論(第16、17章)。時間と空間という錯覚(第18章)。

【第7巻】月のマトリックス。月からの人類支配の仕組み(第19章)。

【第8巻】ゲーム・プランⅠ人口削減と心身への攻撃(第20～22章)。

【第9巻】ゲーム・プランⅡ世界政府と自由の剝奪(第23～25章)。

【第10巻】ゲーム・プランⅢ社会福祉の正体(第26～28章)と結び。

第8章 「映画」を現実と思わせる(1)

- 問題反応解決 フランシム・共産主義世界独裁国家 マスメディアの製造
- PRS——本当の行き先を隠すための作り話 14
- 大量破壊兵器などない 劣化ウラン弾 奇形見出産
- ノー・プロブレム、リアクション、ソリユーションの実例がイラク侵略 共犯者がフシエコレア
- 9・11の アラブ偽装テロ、アフガン襲撃、監獄国家へ 22
- 9・11の P R S 22
- 米航空機爆破テロをキューバに偽装ケネディの英断
- 「40年前の9・11」ノースウッズ作戦は未遂！ 27
- ロ ス チ ヤ イ ル ド の 指 紋 だ ら け の 世 界 貿 易 セ ン タ ー ・ ビ ル
- 11 の 事 件 だ ら ぬ 11 年 前 に ！ 国 防 省 で 3 兆 ド ル 以 上 を 「 粉 塵 」 さ せ た ド ヴ ・ ザ ク ハ イ ム ニ ユ ダ ヤ 人 ラ ビ
- 「新たな真珠湾」を起草したロ ス チ ヤ イ ル ド の 「 ネ オ コ ン 」 41
- 父はナイジェリアの元政府高官、モサドとも親密な武器メーカ経営 メーカは国土安全保障省長官の知人
- 画策された「股下爆弾犯」——全身スキヤナーの導入 47

キヤドの警備会社 9・11、「戦下爆弾」、(7・7攻撃)、「戦爆弾」
ICTSとテロ事件の奇妙なめぐり合わせ 52

黒船「ロフツェン」家、ハリマン家もであるがゆえに「マスメディア」は一切口を閉ぢ「オチス」ヒトナリ
ブツ シ ユ 家の 資産 の 出 所 は第三帝国 56

世界政府・世界軍という地球規模の「解決策」
第三次大戦の P R S 63

破滅「ブッシュ」から「教皇」(「オバマ」) アルカイダ生みの親、「世界国家」樹立！ 世界経済破壊王
大統領の P R S —— プレジデンスキー、ジョージ・ソロス、グリーンSPAN 65

超シオニストは血筋の利益のためにアメリカを徹底的に破壊する！
ロスチャイルドのホワイトハウス、そして、財務省、議会…… 78

「オバマブツシユ」大統領 —— 規制解除↓金融破綻↓税金投入 87

「ゴールドマン・ステインクス(腐敗臭)」あるいは「ゴールド・イン・サツクス(金を入れる袋)」
102

米経済標的のグループ30 —— ヴォルカー、ガイトナー、サマーズ、コリガン 116

衝撃的な残虐行為 —— ホームレスの違法化！ 118

バラク・オバマ 七面鳥が感謝祭とクリスマスに賛成投票
インチキ大統領を好んで選出したアメリカ国民 123

ブレジンスキー、ソロス(完全無償付与)
デモ、コン 鑄造の出生不明大統領オバマ 130

マイノリティ・コントロール 嘘つばちの「ホープ」「チエンジ」「ピリッ」
大衆の心理操作 —— ミスター・インチキの売り方 135

希望による催眠 ドウ・イット・ユアセルフ 詐欺師
ホプノシス —— 中毒者にとつては良い大統領 141

架空「民衆の男」——アフガン、イラク、グアンタナモ、ホムレスを見よ！ 実体は民衆虐待者！ 146

第三巻コラム プログラム・リアクション・ソリューション事例集 為清勝彦

153

第9章 「映画」を現実と思わせる(2)

「カラー革命」も 暴虐トリオ(英・米・イスラエル) 軍事課報機関
テロ集団は本物の「悪の枢軸」のフロント組織 166

イランの石油国有化のモサワテク クイデテ! シヤール・ホメイニ
まともな首相は追放、操り人形を次々と費消 167

シエワルナセトサカシュウイリ ラレジンスキーの子分
「バラ革命」工作は、CIA+ジョージ・ソロス 170

実行は CIA 罪の不正操作偽情報キャベツ、緑の革命
ブツシユ大統領のイランの不安定化工作 173

米国民主義基金 ロスチャイルド・イルミナティ 反体制グループに資金提供
NEDは地球独裁計画の障害物を攻撃 176

イランのテロ組織は「恐怖の双子」のフロント組織 ジュンダラ 米国モンソニスト 179

アメリカを利用してアメリカを破壊する!
タリバン支援の英国軍と米軍 181

各国で政権交代の火種をまき散らす!
ユーラシア作戦で世界支配を! 184

聖人は「酸化炭素！」
「気候変動」というノーブプロブレム・リアクション・ソリユーションの大嘘
190

ノートンキなゴア！
戯言で高い報酬——要認識！「カーボン取引」究極の目的
197

「グリーン書院」登場！
「グリーン書院」——「アメリカ・グリーン・エネルギー・安全保障法」
205

「気候変動」に対する恐怖と罪悪感を植え付ける
208

ロスチャイルドの詐欺の蜘蛛の巣「クライメイト・グルーヴ」が愉快
212

「スターン・チーム」とはカーボン取引「業界」、気候変動陰謀団
216

大惨事を警告！
国連は中世の温暖期の記録を意図的に削除
222

8001300、今より3℃高い！原因は太陽生活活動が弱った！
合言葉は「グリーン」——世界支配へ前進！
228

「科学的」なでたらめ公式説を否定した「マンハッタン宣言」学者
233

「生活のために嘘をつく」気候変動の「父」、以下同
238

「意図的な未知」が露呈！どうする？ゴアさん、オバマさん、海面も上昇して
気温は上昇していない、北極熊は死んでいない、氷床は溶けていない
245

「人間活動温暖化説」お広めに不可欠なグリーンとトリピーター
250

過去30年間
最も寒い冬に開催の「地球を温暖化から救おう」会議
252

2009年、オバマ以下VIP大量参加、イリミナチイ家は天啓
252

ゾアの擁護者、工業破壊実行者、最大の環境破壊者
モーリス・ストロングの本音「持続可能な発展」じゃない！
持続可能な支配」
257

これもモーリス・ストロング 国連「世界政府」に
生物多様性条約は土地を没収する策略
261

トリータリリアン・テイワット
全体主義者の忍び足——行く先は、地球規模の中央集権・警察国家
262

付録 I フェビアン協会のLSE(ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス)の学生・職員 (1)～(16)

第8章

「映画」を現実と思わせる(1)

革命で実現されたものを守ろうとして独裁制になるのではない。
独裁制にするために革命を起こすのだ。

ジョージ・オーウェル

ペルーでの体験から数年以内に、私は、さまざまな心理操作マインドと感情操作エモーションの技術により、いかにして人々が集団的にプログラムされているかに関し、重要な洞察を得た。

我々は、次の二つのことを、ぜひとも理解しておかなければならない。これまで何年も繰り返し述べてきたが、今後も何度でも繰り返したいと思っている。それほど重要なことだ。それは、

- ① 「PRS」すなわち「問題創作プロブレム↓民衆の反応リアクション↓解決策提示ソリューション」と、
- ② 「全体主義者の忍び足トータルリターン・テイップト」である。

日々、この二つのテクニクが使われ、無知な人々に、血筋のファシスト・共産主義の策略略が売り込まれている。

リチャード・デイ博士（ロスチャイルド・シオニスト）は、1969年にピッツバーグの医師に対し、「何事にも二つの目的がある。一つは、人々が納得できるように表向きシステマの目的、もう一つは、新たな支配構造システマの確立という目標に近付くための本当の目的だ」と語ったが、これは極めて正しい指摘である。ここには、私がPRSと名付けたテクニクの存在理由が

見事に言い表わされている。

PRS（プロブレム、リアクション、ソリューション）という言葉は、世界で何が起きているのか見抜くことのできる人々に普及しつつある。これは素晴らしいことだ。PRSを理解した人々は、操りにくくなるからである。

PRSは次のように機能する。人々が猛烈に反対するような変化を社会にもたらしたいとする。例えば、ジョージ・オーウェルもたじろぐような監視国家にしたいとする。人々の敵対を回避するには、本当の意図を公表するわけにはいかない。そこでPRSを採用するわけだ。

まず第一段階で、秘かに問題を創作する。例えば、テロリストの攻撃、経済破綻^{はた}、戦争、伝染病の大流行などだ。それぞれの時点の目標に相応^{ふさわ}しいものなら何でもよい。第二段階で、疑問を抱くことを知らない哀れな主流マスコミ（血筋が所有）を通じ、人々に信じ込ませたい内容で、人々に問題^{ストーリー}を教える。9・11の例で言えば、単一エンジンのセスナ機をかううじて運転できる19名のアラブ人ハイジャック犯が、突如として、映画『マトリックス』のトリニティのごとく、大型のジェット旅客機を神業^{かみわざ}のように操縦する能力をダウンロードして身につけるといった話である。どれほど信じがたい話であっても、主流マスコミに批判されることを心配する必要はない。マスコミは、何の疑問も感じず、言った通りに繰り返してくれ

爬虫類人の技術を駆使するハイブリッド①

1970年にブレジンスキー（カーター大統領の国家安全保障アドバイザーで、オバマを指導した人物）は、「正確にタイミングを合わせ、人工的に励起された電子攻撃により、比較的高い出力レベルを地球の特定の地域に生み出す振動パターンを起こすことができるだろう。（略）対象地域の非常に多くの人口の脳機能を長期間深刻に損ない続けるようなシステムを開発できるだろう」と書いている。これは40年前の記述だ。爬虫類人から技術が手渡されていることを考えれば（全てはそこから得ている）、現時点ならばどれほどのことができるだろうか。爬虫類人は、自らの目標を達成するために必要な技術であれば提供する。

る。そして大半の人々も同じことを繰り返してくれる。そうなると後は、恐怖と憤怒おんぬにかられた人々が反応し、「何か対策が必要だ」と懇願・要望し始めるのを待てばよいだけだ。

一般の人々が理解できていないのは、捏造ねつぞうされた問題の背後に潜ひそんでいる勢力と、解決策（対策）を提示する勢力が、同一なことである。その対策とは、偶然にも、権力の集中と支配の強化という目標に合致した内容であることは言うまでもない。私は、こうした考察に基づき、公式版の世界情勢認識は「映画えいば」だと言っている。本当に起きていること、本当に向かっている行き先を隠すための、作り話である。テレビのニュース、主要なラジオ局、新聞で毎日報道されているものは、国内外で起きていることの本当の重要性、背景・動機を分かりにくくするための虚偽きよぎの説明である。血筋に直属する一部のジャーナリストを除き、ほとんど全てのジャーナリストは、この日々展開されるPRSの手口の中で、自らが果たしている役割をまるで自覚していない。一般の人々と同じくらい、否、それ以上に、無知蒙昧もうちまいであることが多い。

大量破壊兵器などない、劣化ウラン弾、奇形、兎出、産
ノー・プロブレム、リアクション、ソリューションの事例がイラク侵略

PRSには、「ノー・プロブレム、リアクション、ソリューション」という応用型もある。

この場合、実際に問題を発生させる必要すらなく、人々に問題があるように認知させるだけでよい。最も有名な事例としては、ロスチャイルドの手先であるジョージ・W・ブッシュとトニー・ブレアが（裏に隠れたご主人に代わって）命令した2003年のイラク侵略の前に行われたものがある。この二人は、陰謀団に奉仕し、金銭的な報酬を受け取るために必要不可欠な性格的欠陥を備えている。良心のかけらもなく、全世界に対して嘘をつくことができ。ブレアの演説に少しでも真実があつたならば、誤植タイプミスによるものだ。その当時、ブレアの情報操作を指揮していたアラスデア・キャンベル（嘘をつくことと弱い者いじめを得意とする人物）は、もつと悪質である。もし彼が少しでも真実を語るようになったなら、病院で精密検査が必要だ。

彼らは、サダム・フセインが脅威きょういではないことは十分に承知していた。イギリスの武器査察専門家で、イラクのミサイル能力に関して広範な知見を持っていたデーヴィッド・ケリー博士は、侵略の根拠となっていた嘘を台無しにする恐れがあつたため、戦争準備の過程で暗殺された。ケリーが「自殺」したという政府説明には、尽きることのない矛盾むじゆんがある。簡単に言えば、自殺ではなかったということだ。ケリーが殺害されたと主張する医師6名が、法的措置を取り、ケリーの死に関する調査の再開を要求している。彼らは、ケリーが自殺していないことを証明する痛烈なレポートを出版すると言っている。

爬虫類人の技術を駆使するハイブリッド②

月や地球の地下基地では、人間（の形態をした生物）の遺伝子工作が依然として続行されている。公式発表では戦争の戦闘行為で死んだことになっていながら実際に死んでいない兵士の多くは、ほとんどロボット状態となって、こうした地下基地の下層で働かされている。爬虫類人の技術と遺伝子学によって極めて長生きできるようになっている。また、ETや軍に誘拐された人々と一緒に、地球の地下基地や月で遺伝子実験にも利用されている。これらが生殖することで、まったく新しい「人間」の種が創造されており、現在の人類を「間引き」した後に置き換えるよう準備されている。少なくともそれが彼らの望みである。

ブッシュ（ロスチャイルド・シオニスト）もブレア（ロスチャイルド・シオニスト）も、意図的な嘘で戦争を起こし、大量に人を殺した犯罪者である。私の著書で明かしてきたように、イラク侵略は、公おおやけに議論されるずっと前から計画されていたものであり、このことは、その後、公式な情報源でも確認されている。「大量破壊兵器」は、狂った殺人と破壊を人々に納得させるための「ノー・プロブレム、リアクション、ソリューション」に過ぎなかった。現在、トニー・ブレアは、世界中を旅行しながら、無意味な演説と「助言」を行い、JPMORGAN・チェイスなどロスチャイルドの手先機関から巨額の報酬を受け取っている。また、彼は自分自身の会社「ソウルズ・フォー・セイル（魂、売ります）社」を設立すると聞いている。哀れな男だ。彼には魂はないのに、どうやって売るのだ？

侵略を正当化するブッシュとブレアの嘘のせいで、100万人を超える人々の命がイラクで失われ、今もなおゾツとするような苦悶くもんが続いている。標的となった都市ファルージャでは、子供を出産する女性が恐怖に怯おびえている。国連への請願書によると、「頭がない、頭がない、頭がない、目が一つ額についている、うろこに覆おおわれた身体、手足がないといった痛ましい奇形児の出産が増加している」という。ブッシュとブレアが送り込んだ英米軍の兵器に使用されている劣化ウランのために、ファルージャの幼い子供たちは、見るも恐ろしい癌と白血病に苦しんでいる。

2009年9月にファルージャ総合病院で生まれた170人の子供の内、24%が生後1週間以内に死亡し、ショッキングなことに、死亡した新生児の75%は奇形と診断されている。侵略の前の2002年の統計では、新生児530人の内、1週間以内に死亡したのは6人で、奇形は一人だけだった。また、「生き残った新生児の多くも、その後の成長段階で深刻な障害を抱えている」と医者は言っている。英国政府がこうしたおぞましい事実に関して抗議を受けると、ガレス・トーマス（国会議員、国際開発大臣）のような戯言たわごとを触れ回る専門業者が、ファルージャでは年にせいぜい二人か三人しか奇形児は発生していないから問題はないと発言する。彼は、良い人間であるとすれば、官僚の作文を繰り返すだけの人形であり、悪い人間ならば、ひどい嘘つきだ。

ある墓地で墓を掘る仕事をしている者が証言しただけでも、毎日4、5体の新生児が埋葬されており、その大半が奇形である。ブレアよ、これで満足したかい？ 男を上げた気がするかい？

以上のような惨事さいじは、単純にして破滅的なまでに効果的なテクニク（問題を創作もしくは錯覚を生み出し、それに対する解決策を提示する手法）によって、実現されている。

2001年9月11日の攻撃は、最も典型的なPRSだった。ロスチャイルドの秘密結社ネットワークが、米政府、米軍、NSA（国家安全保障局）、CIA、FBI、外国の軍事組織（特にイギリスの諜報機関とイスラエルのモサド）、航空・ハイテク産業の背後で操っていた。こうした蜘蛛の巣のいろいろな糸を使って、血筋は残酷な9・11を計画・実行した。これは、偽って「アラブのテロリスト」の問題とされ、その解決策として「テロとの戦い」が提示され、アフガニスタンとイラク侵攻に誘導されていた。さらに、2001年以降、オーウェルのな法律が次々と強要され、地球規模の警察国家に向けて急速に進行している。この9・11と「テロの脅威」の「正当化」なくして、地球規模の陰謀が今日の段階まで到達することは決してなかったはずだ。

それこそが、血筋ネットワークが、地上から遠隔操作した飛行機でツイン・タワーを攻撃した理由である。これは現在の技術では、アメリカのグローバル・ホーク（ボーイング737型機の翼幅を持ち、操縦士なしで世界中を飛び回る）のような飛行機を使えば、子供の遊びのように簡単である。



図55 9・11のプロブレム・リアクション・ソリューション。

爬虫類人の技術を駆使するハイブリッド③

爬虫類人は、クレドの表現では「本当にめちゃくちゃにしたがっている」のである。多くの人々が高次の意識に気づき、そこに再接続することを妨害するという意味では、彼らは「めちゃくちゃにする」のであろう。だが、多くの場合、彼らはそれに失敗するであろうし、現在の集団的覚醒こそが彼らの砂上の^{ろうかく}楼閣を崩壊させる。支配と抑圧を求めている勢力よりも遥かに強力な勢力が、今、ここで活動している。

遠隔操作された無人偵察機^{ドローン}が、アフガニスタンやパキスタンで敵陣の中を嗅ぎ回ったり、爆撃をしかけていることは、よくニュースで耳にしていると思う。私は、『不思議の国のアリスと世界貿易センターの惨事』〔邦訳『究極の大陰謀』三交社〕という本で9・11の政府説明を崩しており、私のウェブサイト davidicke.com にも、9・11の調査に関する文書やビデオを豊富に掲載している。

ツイン・タワーは、人間の集団心理に最大の影響を与え、表に出るのを待っていた「解決策」を受け入れることができるように、制御された爆破で倒壊された。もし、そんなことはありえないと思う人がいれば、2001年に発覚した「ノースウッズ作戦」〔1962年〕の文書を読んでみるべきだ（『デーヴィッド・アイクの世界陰謀ガイド』〔邦訳『恐怖の世界大陰謀』三交社〕を参照）。これは9・11の4カ月前に、ワシントンのABCテレビの調査プロデューサーのジェイムズ・バムフォードが、『秘密の組織 (Body of Secrets)』で公表した。この政府文書には、国防総省の統合参謀本部（陸軍大将のライマン・L・レムニツァーが本部長）による1960年代の計画が詳しく記載されている。キューバに侵攻する根拠を作るために、テロリストの攻撃をしかけ、それをカストロのせいにする計画だった。バムフォードは書いている。

2011年3月の福島第一原発の事故現場を米軍の無人偵察機グローバルホークが撮影したというニュースは記憶に新しいだろう。30センチ四方を識別し、温度計測も可能な電子光学・赤外線カメラ、雲を透過する合成開口レーダーも搭載し、リアルタイムで映像を送ることができるという。



図56 グローバル・ホークは、無人・遠隔^{リモコン}操作により、世界中を飛び回ることができる。

統合参謀本部の全メンバーの書面による同意がなされたその計画では、アメリカの街頭で無実の市民を銃撃すること、キューバから亡命する難民を乗せた船を公海上で沈没させること、ワシントンDCやマイアミなどで残酷なテロ行為を連発させることが提言されていた。人々は自らの犯行でない爆撃の罪を着せられ、飛行機はハイジャックされる。虚偽の証拠により、全てはカストロのせいになされ、レムニツァーらの陰謀団は、国民の支持と国際的な支援を得ると同時に、戦争を始めるために必要な口実を得ることになる。

米航空機爆破テロをキューバに偽装ケネディの英断
「40年前の9・11」ノースウッズ作戦は未遂！

ノースウッズ作戦には、遠隔操作の無人機の使用すら含まれていた。これは9・11の40年前の話だ。米国からジャマイカ、グアテマラ、ベネズエラ、もしくはパナマに向かう民間チャーター機を、キューバが打ち落とすという話を、人々に信じ込ませる計画だった。キューバを通過するような目的地を選ぶ手はずだった。「本物」の飛行機（実際にはCIAの飛行機）は、「入念に用意された別名」で搭乗した「選ばれた」旅客を乗せ、一般の空港から離陸することになっていた。そして、フロリダ南部の上空で遠隔操作された代替機と入れ替

えられ、それをキューバまで飛行させて遭難信号を送信した後、無線信号で破壊することになっていった。もともとの飛行機は、空軍基地に着陸し、見せかけの「乗客」はそこで降りる計画だった。バムフォードは、ノースウッズの資料から、以下を引用している。

エルジン空軍基地の飛行機は、マイアミ地区のCIA所轄組織に所属する民間登録機とそっくりの外観になるように塗装し、番号を付す。決められた時間に、この複製機を本物の民間機と入れ替え、入念に選抜した人間を別名（偽名）を使って乗客として乗せる。本物の民間登録機は、ドローン機（無人遠隔操作機）に改造する。このドローン機と実際に人を乗せた飛行機は、フロリダ南部でランデブー（合流）できるように離陸時間を調整する。

ランデブー地点より、乗客を乗せた飛行機は、低空ぎりぎりまで降下し、エルジン空軍基地の補助飛行場に直行する。そこで、乗客を降ろし、飛行機を元の状態に戻すよう手配しておく。ドローン機のほうは、飛行計画に従って飛行を続ける。キューバ上空に差しかかったところで、国際遭難信号周波数で「メイ・デー」のメッセージを発信し、キューバのミグ戦闘機の攻撃を受けていることを伝える。無線信号のスイッチで飛行機が爆破されると、通信が途絶えることになる。そうすれば、西半球のICAO（国際民

HAARPの目的は月からの心理操作システムのサポート①

月にいる爬虫類人とグレイの遺伝子学者は、地球が地殻大変動から回復し始める前の長い期間に、さらなる工作を加えたタイプの人間を創造し、実験していた。その目的は、奴隷である人間の心、認識、行動を完全に支配することだった。その遺伝子工作では、人間を五感と可視光線の囚人にして、徹底的に「物質」的現実で孤立化させるため、電気・化学回路を配線し直した。

間航空機関)のラジオ局が、飛行機に何が起きたかを米国に伝えてくれることになるだろう。わざわざ米国が事故を「宣伝」する手間が省ける。

我々は、こんな計画を考えるような連中を相手にしているのだ。この計画は、ケネディ大統領(1917〜63・11・22、在任1961〜63)が承認を拒否して阻止そししたようだが、9・11で起きたこととそっくりであり、ロンドンの2005年の爆弾事件のような「テロ」攻撃も、40年前に計画されていたことを証明するものである。40年間の技術の進歩を考えると、現時点ではさらにできることの範囲が広がっているはずだ。政府や諜報機関がテロ行為を実行しながら、他の人々に責任を押し付けるという「偽旗作戦」フォルク・ランツクは、ロスチャイルド支配下のモサドの常套手段じょうとうしゅである。

多くの場合は気付かれないようにやっつけてのけるが、1954年にスキャンダルとなって発覚したことがある。イスラエルがエジプトのさまざまな建物(米国の所有する建物も1件あった)に爆弾をしかけたことが判明し、それをアラブの「テロリスト」の犯行と思わせるように証拠を残していたのだ。爆弾の一つが予定より早く爆発し、爆撃犯が一人捕まった。これがエジプトで活動するモサドのスパイ組織の発覚につながったのである。モサドの工作員は、ロスチャイルド家が関心を持っている国(特に北米と欧州)ならば、どこでも活動して

HAARPの目的は月からの心理操作システムのサポート②

遺伝子をいじくり回したり、現実信号を送信する他に、爬虫類人は月から放射される「周波数の柵」で地球を囲み、奴隷人間たちを啓発させるような周波数が地球に届かないように阻止している。これが、アラスカを拠点として世界中に拡大しているHAARP（高周波活性オーロラ調査プログラム）と呼ばれる計画でさらに拡大されている。

いる。

9・11のハイジャック犯のリーダー格とされるモハンメド・アッタは、ハイジャック犯の多くが「訓練」を受けたフロリダのベニス市空港を中継地点として、CIAのために麻薬を密輸していた（『デーヴィッド・アイクの世界陰謀ガイド』を参照）。彼も他のメンバーも、何ら関係ないにもかかわらず、責任を負わされることになった。9・11の前にパキスタンのISI（統合情報局）長官からアッタに10万ドルの送金があったという話が有名になったが、これは言われているように攻撃の報酬として支払われたのではない。ISI（CIAのパキスタン支部のようなもの）の絡んだ麻薬密輸活動の一環に過ぎなかった。ISIは、血筋が9・11のような秘密作戦を実行するための資金を提供し、全てを帳簿外にしておくために、アフガニスタンで栽培されるケシと、アメリカなどの都市で消費されるヘロインとをつなぐ導管の役割を果たしている。アッタに送金した男は、ISI長官のマフムード・アーメドであるが、彼は9・11の1週間前にワシントンに到着し、政府と諜報機関の役人と会っている。攻撃が行われている時間帯に、彼はフロリダ州選出のボブ・グラハム上院議員（上院の諜報委員会の議長）と朝食をとっており、パキスタンの駐米大使マリーハ・ロディ、他の米国上院・下院の諜報委員会のメンバーも同席していた。CIAの工作員のポーター・ゴス下院議員も一緒だった。後に、上院と下院の合同「調査」委員会の共同議長を務めたのが、このグ

ラハムとゴスだった。9・11攻撃の政府見解を支持する内容の「調査」だったことは言うまでもない。

ロスチャイルドの指紋だらけの世界貿易センター・ビル

ビルの新オーナー、港湾局長ゴールドマン・サックス、司法次官補、モサド、etc.

9・11の至るところにロスチャイルド・シオニストがいた。ラリー・シルバースタイン（ロスチャイルド・シオニスト）とその仲間のフランク・ロウイー（ロスチャイルド・シオニスト）は、9・11の数週間前に世界貿易センター複合ビルを丸ごと99年間賃借し、35億5000万ドルの保険をかけている。そして攻撃の後で、その2倍の金額を請求した。ロウイーは、パレスチナ人に対する殺戮^{さつりく}と脅迫が行われていた1945年にシオニストのテロ組織ハガナーに加わっており、イスラエルの歴代首相（ベンヤミン・ネタニヤフ、エフード・オルメルトなど）と親交がある。図57のシルバースタインも、ネタニヤフ、アリエル・シャロン（9・11のときのイスラエル首相）、エフード・バラック（2008～09年にガザでパレスチナ人の大量殺害を命令した国防大臣）の親友である。

シルバースタインとロウイーは、世界貿易センター・ビルの取引を、ニューヨーク州とニュージャージー州の港湾局長のルイス・アイゼンバーグ（ロスチャイルド・シオニスト）と

交渉し、その前にもロスチャイルド支配下のゴールドマン・サックスと交渉していた。シルバースタインもアイゼンバークも、イスラエルの資金調達のために巨額の資金を扱っているロスチャイルド・シオニストの組織「ユナイテッド・ユダヤ・アピール」で高い地位に就いている。シルバースタインは、2001年9月11日には、世界貿易センターにいなかった。南タワーの88階で予定されていた港湾局の役人との打ち合わせは、直前にキャンセルされた。AP通信によると、「皮膚科の病院を予約していた」そうである。

また、シルバースタインは、もう一つの世界貿易センターのタワー（第7ビル）は「引き抜かれた（pulled）」と発言している。これはビル解体の業界用語で、計画的な解体を意味する言葉である。それでも政府の公式説明では、損傷が激しかったために倒壊したことになる。シルバースタインは、本当のことを口をすべらせてしまったのだが、それ以来、必死になって発言をごまかそうとしている。第7ビルのような巨大な建物を「引き抜く」ためには、少なくとも何日間かの準備期間が必要であり、転倒することなく敷地内に崩落するように適切な場所に爆弾をしかけなければならぬ。「引き抜け」という指示があったから（シルバースタインによると）ほとんど一瞬の内に、これが実現できたのはどういうわけか？ 9・11に関して主流マスコミが何の疑問も感じることなく繰り返している他の物語と同様、まったくナンセンスである。「引き抜き」に備え、9月11日のずっと前から第7



図57 ラリー・シルバースタイン。「引き抜け！」

HAARPの目的は月からの心理操作システムのサポート③

爬虫類人とハイブリッド血筋の陰謀団は、自らの技術を使って「自然災害」を工作し、国や地域を破壊しては、それを口実に「人道支援」や「平和維持」という名目で占拠する。

HAARPの主たる役割は、月から投影されている「周波数の柵」を大幅に強化し、人間を虚偽の現実感覚に閉じ込めたままにしておくことにある。

ビルには爆弾が装着されていたのである。長い間、計画され、当日に実行された「脚本」の一部だったのである。

9・11を担当した米国の司法次官補は、マイケル・チャートフ（ロスチャイルド・シオニスト）で、彼はフェビアン協会のLSE（ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス）の出身である。

彼の母は、イスラエルが爆撃によって1948年に建国された後の初期のモサド工作員の一人である。チャートフは、9・11を受けて設立されたオーウェルの組織、国土安全保障省の2代目長官になった。彼は、米国の諜報機関と軍の最上層部に浸透していたイスラエルのスパイ組織のメンバー100人以上を自由に行っている。

その一部は、攻撃の前の数週間、モハンメド・アッタを尾行していたが、スパイ組織が発覚すると、チャートフ（米国とイスラエルの二重国籍者）は彼らを自由にした。また、9月11日に攻撃を撮影しながら歓声をあげていたところを目撃され、ニュージャージー州で逮捕されたモサドの工作員5人も釈放している。彼らは、偽のパスポートと大金、「ハイジャック犯」が使用したとされた（これは事実ではない）のと同種のカッターナイフを所持していた。だが、カッターは「ハイジャック犯」の行き先で「発見」されている（アッタは、イスラエルのスパイに何週間も尾行されていたことを想起されたい）。

5人のモサドの職員は、つじつま合わせの表向きの組織としてアーバン・ムービング・システムという「運送会社」を使っていたが、9・11の直後に、同社の「所有者」のドミニック・サッター（ロスチャイルド・シオニスト）は、そそくさとイスラエルに逃げていた。モサド（ロスチャイルド）の5人の職員の一人は、イスラエルのラジオ局で、彼らは「事件の記録を取るため」にニューヨークに送り込まれたと語っている。事前に発生することを知っていなければ、不可能なことだ。

世界貿易センターから2区画離れた場所にあったオデイゴというロスチャイルド・シオニストのソフトウェア会社の二人の従業員（イスラエルに拠点）が、最初の攻撃の2時間前にコンピュータのメッセージで警告を受けているが、この警告は他には伝達されなかった。送信者のアドレスはFBIに提出されたが、何も起きなかった。どうしてだ？ 分かりきったことだ。背後にいる連中はFBIも操っている。オデイゴの本拠地はイスラエルで、研究開発部門はテルアビブの北にあるヘルズリアという小さな町にある。これは偶然にも、前線組織としてソフトウェア会社をいくつも保有するモサドの本部があるところだ。

ジョナサン・エリノフという研究者（Coreofcorruption.com）も、9・11の前に世界貿易センターのノース・タワーに住んでいたドイツ人とオーストリア人の「美術の学生」のことを、2009年10月に明かしている。彼らは、攻撃の後、モサドのスパイ組織とともに逮捕

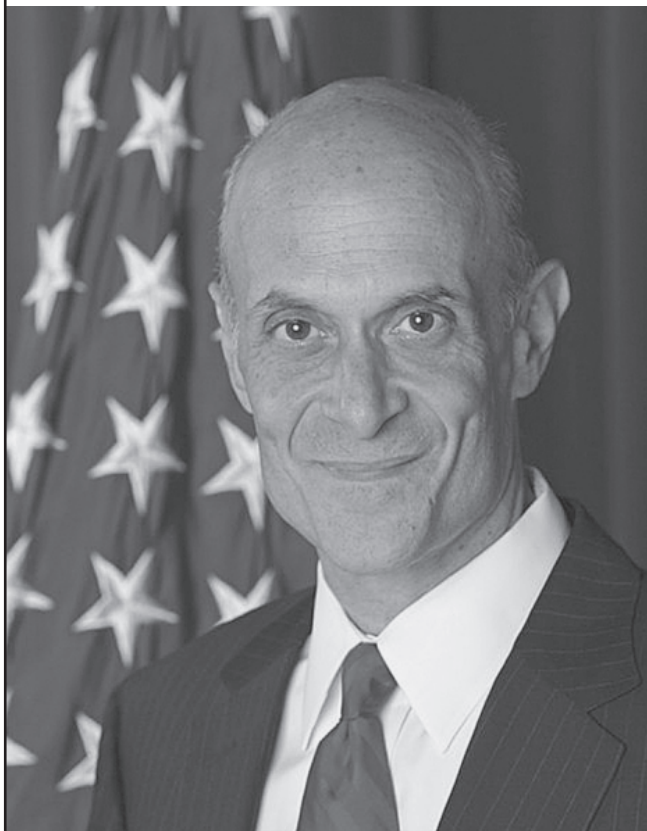


図58 マイケル・チャートフ。米国の国土安全保障の仕事をするイスラエルの男。

H A A R Pの目的は月からの心理操作システムのサポート④

これがH A A R P技術で意図していることである。月で生成されるメインの心理操作システムを支援することであり、月のマトリックスと一緒に、その本当の効果は情報設計図である非物質宇宙で発生している。これは心を根源意識へと開放することで克服できるが、肉体コンピュータの現実にとらわれている人には、自らが信じているものが自分自身の考えや感情なのか、外部から送信され脳で解読しているに過ぎないものなのか、区別がつかない。

された。「美術の学生」はモサドがよく使う偽装である。エリノフは、文書、写真など広範な裏付け資料をまとめている。彼らは2000年5月に91階に住んでおり、テントで寝ながら組み立てを行っていた。正式な建設許可を得て、そこに「大胆な芸術作品」を製作することになっていたという。彼らは、ポップカルチャーの推進のため、公共の場に派手な芸術作品を展示することを奨励しているグラティンという組織とつながっていたと言われる。エリノフによると、学生たちは、モサドの作業員と一緒に逮捕されたが、後に釈放されたそうである。

「9・11のこと新たな真珠湾」を起草したロスチャイルドの「ネオコン」
「1年前に1」国防総省で3兆ドル以上を「紛失」させたドゥ・ザクハイムユダヤ人ラビ

リチャード・パール、ポール・ウォルフowitz、ドヴ・ザクハイム、ダグラス・フェイス、ジョン・ボルトン、ルイス・リビーなど、ブッシュ政権を支配していたネオコン（新保守主義）は、ほとんど全員がロスチャイルド・シオニストである。彼らは、9・11のちょうど1年前にサダム・フセインの排除と新たな征服戦争の煽動せんどうを求める文書を作成している。その文書は、「この変革のプロセス」は「新たな真珠湾攻撃のような大惨事によって触発されなければ」相当に長引く可能性が高いと述べている。詳細は『デーヴィッド・アイクの世